

新基地建設反対名護共同センターニュース

政府の焦りの表れ 新しい柵の設置



②ごぼう抜き前のにらみ合い (17日 8時55分)



① 新たな柵が設置された直後(15日 9時)



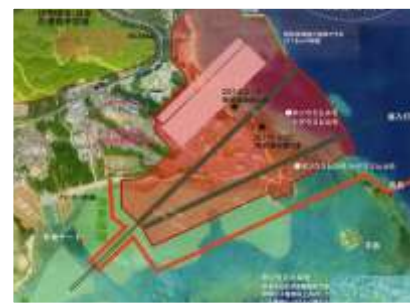
④手間取る重い柵の移動 (17日 9時20分)



③狭い所からのごぼう抜き (17日 9時10分)

17日の朝は、防衛局が辺野古ゲート前に新たな柵を設置して以降、初めての座り込みだった。5〜60人ほどが座込んで「表現の自由を奪う政府、防衛省の新たな弾圧だ」と抗議の声を上げた。午前8時55分、機動隊が出動。座り込みの排除や新たな柵の移動にこれまで以上の時間がかかった。通常、これぐらいの人数の座り込みなら15分ほどで作業車を入れることができたのが、今日は座り込んでいる場所が狭いことと一個200キロもありそうな柵を移動する手間が加わったからだ。結局、作業車は入るまでに30分以上かかった。「何のための新しい柵なの?」という声が聞かれた。防衛局による来月中旬からの土砂投入の強行計画、そしてその前にも翁長知事が埋め立て承認の「撤回」を判断する可能性が報道されている中、政府・防衛省の焦りが如実に表れた朝のドラマだった。(早)

防衛局の土砂投入前に知事「撤回」か
たたかいははいよいよ正念場・決戦へ



ゲート前抗議行動や県民大会に参加を!

●8月6日(月)~10日(金) 毎朝8時結集

辺野古新基地阻止ゲート前集中行動 (主催・オール沖縄会議現地闘争本部)

●8月11日(土) 11:00~12:00 (那覇市奥武山陸上競技場)

「土砂投入を許さない県民大会」(仮称)

主催・辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議

●8月16日(木)~18日(金) 毎朝8時結集

辺野古新基地阻止ゲート前集中行動 (主催・オール沖縄会議現地闘争本部)

“基地に頼らない自立経済への展望”

全商連・沖商連が沖縄でシンポジウム



全商連と沖商連は8日、「基地に頼らない自立経済への展望」と題してシンポジウムを那覇市内で開催。県内外の民商関係者や労組役員、地方議員など135人が参加しました。前泊博盛沖国大教授が記念講演し、シンポジウムでは前泊氏の他、照正組の照屋義実会長、沖商連備瀬知充会長、ペンション経営の会沢芽美氏がパネリストを務めました。

基地がない方が経済は発展する

前泊氏は基地が返還された跡地での目覚ましく経済発展した実態を、照屋氏は脱公共工事で建設業発展の実績を報告。備瀬氏と会沢氏は民商運動や民泊での仕事興しの経験などを報告。

参加者は「秋の知事選で勝利して、基地のない平和な21世紀の沖縄ビジョンをぜひ実現したい」と感想を語っていました。